

環境科学部  
**環境政策・計画学科**  
 Department of ENVIRONMENTAL POLICY AND PLANNING

問題を探せ。  
 答えを探すな。



環境課題と向き合うために必要な広範な知識と課題解決に必要な人間力が身につきます。

環境分野を広く学べると知り、この学科を選びました。政策学や計画学はもちろんだら、統計学や経済学、社会学など広範に学ぶことで、課題を様々な角度から捉え、解決に向かってアプローチできるようになります。卒業論文では興味を持った分野を自ら選択し、とことん突き詰めることが可能です。また学生組織に所属することで社会の変革における組織の重要性を理解しました。将来は「ファシリテーション」や「合意形成」の技術を存分に生かし、社会問題の解決に望むつもりです。現状に満足することなく、つねに優れた人を見つけだして関わりを求め、超えようと努力すれば、より有意義な学生生活が送れるでしょう。テキストは人間。先輩もしかりです。

環境科学部 環境政策・計画学科 3年生  
 梶原 諒 さん / 岐阜県立関高等学校出身

▶ 学びのステップ (4年間の学習フロー)



“環境”で鍛えたチカラは、社会のどこでも通用する。

▶ アドミッションポリシー

環境政策・計画学科は、環境と調和した社会を形成するために、社会を形成している企業、政府、市民の行動を環境調和型に変革していく人材を養成します。そのために、社会科学や自然科学に基づいて環境政策・計画を策定する能力と、実践の技法とを身につけるための教育を行っています。地理歴史・公民・理科など、人間社会と自然環境の広い範囲にわたって関心を有するとともに、これらを学ぶ上で必要な国語・数学・英語の基礎学力を身につけた人を求めます。

▶ 学びのポイント

身近な地域課題から地球規模の環境問題について、文系と理系の多様な視点から総合的に学ぶことを通して、“幅広い視野で物事の見通しを立てることができる人”を育てる学習プログラムにしています。例えば、1年生から専門知識を学べるほか、教員1名につき学生4人程度の少人数の授業が中心で、丁寧な指導を受けられます。また、3年生以降は研究を進めるための研究室や1人1台のパソコンなど、学習環境を整えています。これらによって4年間で一人一人が考える力や社会で求められるスキルを伸ばすことができます。このようなプログラムを通して、具体的な進路を自分自身で設計することができます。そのため、卒業生の進路は公務員、企業の環境部門、環境コンサルタント、起業家、NPO、政治家、研究者などバラエティーに富んでいます。

Point

1 文理を問わず幅広い視野から環境に挑みます

環境政策・計画に関わる科目は、文系と理系の幅広い分野にわたります。文理双方の専門知識と方法論を学ぶことで、実社会で求められる総合的な能力が身につきます。

Point

2 現場で役立つ実践的スキルを習得します

卒業後、幅広い分野や職種で活躍するためのデータ分析、マネジメント、場のデザイン、コミュニケーション等、現場で役立つ実践的なスキルが身につきます。また、社会調査士やGIS学術士などの資格を取得できる授業もあります。

Point

3 自分自身で課題を設定し、現場で実践します

現場でのフィールドワークや行政職員・地域住民などへのヒアリング調査を実践することで実社会の課題を把握します。卒業研究では課題を解決するために社会で役立つ新しい知見を提供します。

▶ 教員スタッフとその専門分野

- |             |                       |             |                             |
|-------------|-----------------------|-------------|-----------------------------|
| ● 井手 慎司 教授  | 水環境管理、土木環境システム、環境影響評価 | ● 林 宰司 准教授  | 環境経済学、環境政策論                 |
| ● 金谷 健 教授   | 廃棄物管理論                | ● 村上 一真 准教授 | 開発経済学、環境経済学、社会心理学、地域経済・政策論  |
| ● 上河原 献二 教授 | 環境法・環境政策              | ● 和田 有朗 准教授 | 環境政策、環境計画、環境システム、地域システム     |
| ● 高橋 卓也 教授  | 環境経営、森林政策・計画、資源・環境経済  | ● 小野 奈々 助教  | 環境社会学、地域社会学、NPO・NGO論        |
| ● 香川 雄一 准教授 | 人文地理学、環境地理学、都市社会地理学   | ● 平山 奈央子 助教 | 湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加、意思決定手法 |



環境科学部  
環境政策・計画学科  
高橋 卓也 教授

## 環境政策・計画学科 ってこんなところ

人間社会と環境との関係について、文理融合の立場から学びます。本やネットに頼るのではなく、琵琶湖の流域はもちろん、日本各地の集落や街、外国の水辺や集落、街などにじかに足を運び、そこで生活し、働く人々と対話するところから始めます。「答えを探さな。問題を探せ」これが、私たちのモットーです。



▲「フィリピンのごみ問題」に正面から立ち向かう(ごみ埋立地にて)

### 〈専門科目の例〉 講義・実習

<b>環境経済学</b> 環境経済学の基礎理論と、その環境政策への応用および、市場メカニズムと環境問題の発生、環境政策の経済的手法、環境の最適利用について学びます。	<b>環境計画学</b> 環境基本法を始め、国内外の環境計画に関する制度や最新の事例を通じ、社会と環境の調和を計画によって実現していくための手法を学びます。	<b>環境法</b> 環境法の対象としている環境問題、仕組み、形成・実施、見直しの過程について学びます。その範囲は、国の法律、自治体の条例、国際的条約を含みます。
<b>廃棄物管理論</b> 廃棄物を適正に管理するために必要な多方面の知識について講義し、受講者は興味ある課題についてグループ作成・調査し、発表します。	<b>GIS演習</b> GIS(地理情報システム)は自然環境に関するだけでなく人間社会の空間情報を統合的に扱う技術です。この基本を学び、応用力をつけます。	<b>環境マネジメント演習</b> 企業の環境マネジメントに必要とされるスキルの実践に親しみます。主要問題の特定、解決策の提示・システム化のプロセスを体験します。

### 卒業研究

学生自ら探した「問題」をもとに卒業論文のテーマを決め、そのテーマにあった研究室で担当教員の指導を受けながら、さまざまな調査方法で研究を進めていきます。

**研究 その1** 開発途上国の小さな島、ツバル。増えつづけるごみをどうすればリサイクルして減らせるの？

担当教員: 小野 奈々 先生 (環境社会学の専門家)

学生が見つけた問題: アンケートから、プラスチックごみの存在しない離島からの移住者が特に分れていないことや、都市での居住年数が増えるほど、分別に適応していきことが分かりました。結果をもとに、ごみ収集作業の効率化にむけた政策提案をしました。

こんな調査をしました: 分別してごみを捨てない住民がいることを聞き取り調査で把握、ツバルの住民にアンケート調査

Aさん 2012年度卒業

**研究 その2** 環境にも体にもいい有機野菜、いくらなら買ってもらえる？

担当教員: 林 宰司 先生 (環境経済学の専門家)

学生が見つけた問題: 消費者は、有機野菜を「安全、新鮮、おいしい」とイメージしています。しかし、そのようなイメージがあるにもかかわらず、有機野菜の普及は一向に進みません。「なぜ売れないのか？」そして「いくらなら売れるのか？」について研究しました。

こんな調査をしました: 実際の売り場で、消費者が有機野菜をいくらなら購入するかを調査(社会実験)

Bさん 2013年度卒業

**研究 その3** 放置自転車対策として 地下に機械式駐輪場をつくりたい!

担当教員: 香川 雄一 先生 (都市社会地理学の専門家)

学生が見つけた問題: 駅前の放置自転車対策として駐輪場の整備が求められていますが、大都市では駅前の地価が高く、駐輪場の設置は容易ではありません。そこで、先行事例を参考にして、駅前の地下に機械式駐輪場を作るための条件を、分析しました。

こんな調査をしました: 東京で地下機械式駐輪場の実態を調査し、GIS(地理情報システム)を用いて、京阪神での設置可能性を検討しました。

Cさん 2014年度卒業

### 社会活動の紹介

**地域課題に向き合う**

滋賀県近江八幡市では高齢化によるヨシ刈りの担い手不足やヨシ産業の衰退などの課題を抱えています。このテーマについて、学生はヨシの利用方法や管理の在り方を分析しました。また、ヨシ群落の管理の一環としてヨシ刈りを体験しました。大切なのは「現場で地域の人と共に汗をかくこと」です。



※詳しくは (http://depp-usp.com/) をご覧ください。

**環境問題の専門知識を学ぶ**

地域環境政策論

日本における地域環境問題の時代的変遷から、環境政策や計画の成果と課題を問題発生地域の事例に基づいて学びます。

**現場で役立つスキルを学ぶ**

ファシリテーション技法・演習

目的に応じた「対話の場」を設計・運営するために必要な技術・思考方法・心構えを体得します。

**現場を実践的に学ぶ**

政策計画演習

社会で起こっている問題の解決策を探るため、データや現場の声を収集し、分析を行います。

### 進路状況 (2013~2015年度卒業生)

**就職先**

綾羽(株)  
伊丹産業(株)  
伊エヌ・ティ・ティ・データ  
株大垣共立銀行  
大阪商工信用金庫  
株関西アーバン銀行  
株かんてんエンジニアリング  
キタイ設計(株)  
岐阜信用金庫  
(一)近畿健康センター  
JAグリーン近江  
株コーシー  
(株)国立病院機構  
湖東信用金庫  
株GSIクレオス  
株滋賀銀行  
株写真化学  
新江州(株)  
ソフトバンク(株)  
株ダイフク  
トヨタ車体(株)  
野村證券(株)  
株パローホールディングス  
株阪急交通社  
株阪急阪神ホテルズ  
(株)東近江市社会福祉協議会  
JA兵庫六甲  
富士通エフ・アイ・ピー(株)  
富士電機(株)  
株平和堂

**進学先**

滋賀県立大学大学院  
京都大学大学院  
愛知教育大学大学院  
滋賀大学大学院  
大阪府立大学大学院  
鳥取大学大学院

**取得可能な資格一覧\***

- 教員免許: 高等学校教諭一種(公民)
- 学芸員資格
- 社会調査士資格
- GIS学術士資格
- 自然再生士補資格
- 地域調査士資格
- 二級ビオトープ管理士(計画部門) 資格試験一部免除
- 社会福祉主事任用資格

**2013~2015年度卒業生の業種別就職状況**

**OB & OG Message**

2013年度卒業  
勤務先: 株式会社村田製作所  
安積 晴香さん

弊社は、ファンクショナルセラミックスをベースとした電子デバイスの研究開発・生産・販売を行っています。売上の90%を海外が占めており、グローバルな会社です。研究から販売まですべて自社のみでおこなうことで、信頼を蓄積した結果、今年の3月には、売上高1兆円を超えることができました。

私は本社人事部に所属しており、定年後再雇用業務、派遣スタッフ管理業務、退職業務、人事部長秘書、従業員の子どもたちを会社に招待するイベントなど主に人の管理に携わる仕事をしています。人事部にとってのお客様は、従業員の皆様です。そのため、従業員の皆様がお仕事しやすいよう、疑問や要望に対応することで「ありがとう、助かりました」と言われた時、非常にやりがいを感じます。

大学では、何度もある卒業論文の発表会を通して、諦めずに調べ抜く力や大勢の人の前で話す力、エクセル・パワーポイント・アクセス等を扱う力が身につく、仕事に役立っていると感じます。

今後は、うまく仕事と家庭を両立しながら、「安積さんに関われば何でも分かる」と言われるような人事担当者になりたいです。(2016年1月現在)

### CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日



時間	内容
8:30	通学
9:00	1限: 環境政策論
10:40	2限: 廃棄物管理論
12:10	昼休み
13:10	3限: 地域調査法演習
14:50	4限: レポート課題を実施
16:30	5限: 政策計画演習(卒論)
18:00	課外活動

**1限**

水資源管理や琵琶湖の政策について学びます。

**3限**

地域での調査設計やサンプリングの方法などを実践的に学びます。

**5限**

テーマを自分自身で決定し、1年半じっくりと卒業研究に取り組みます。

**課外**

友達と一緒に環境関連のサークルや湖風祭実行委員などの活動を楽しみます。

\* すべての資格は、大学が定める所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります。